

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	保健体育ⅠⅠ	
科目基礎情報							
科目番号	15530			科目区分	一般 / 必修		
授業形態				単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	機械工学科			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	アクティブスポーツ総合版（大修館書店）			その他、図書館に多数の関連書籍がある。			
担当教員	岩竹 淳,川原 繁樹						
到達目標							
【サッカー】 1．基本技術の大切さを理解し説明できる。 2．正確なボールコントロールができる。 3．ルールを理解しゲームができる。 【水 泳】 4．効率的な泳法を習得し、泳ぐことができる。 5．ルールを理解し説明できる。 【保 健】 6．交通安全の意識を高め事故防止を考えることができる。 7．地球環境問題を理解し説明できる。 【体 操】 8．マット運動を通じて柔軟性を高める方法を理解できる。 9．静止倒立による逆位感覚を理解できる。 10．縄跳び運動の規定種目を跳ぶことができる。 【バスケットボール】 11．自在なボールコントロールができる。 12．正確なシュートを決めることができる。 13．ルールを理解しゲームができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 主体性	状況を判断し、積極的に準備や運動課題の解決に取り組むことができる。			準備や運動課題の解決に進んで取り組むことができる。		指示が出されても準備や運動課題を解決しようとししない。	
評価項目2 合意形成	他者の意見を尊重しつつ、各種課題の解決方法を提案しながら全体の方向性を調整できる。			課題の解決方法や方向性に関して発言しつつ、他者の意見との共通点や相違点を見つけることができる。		他者の意見を尊重することができず、自己都合で勝手な行動をとる。	
評価項目3 チームワーク力	全体を活気付ける言動により、多様な能力や意欲を持つ集団の一体感を高めることができる。			他のメンバーと協力しながら、目標達成に向かって活動を進めることができる。		他者と関わらず、運動に参加しなかったり単独プレーしかできない。	
学科の到達目標項目との関係							
本科学習目標 1 本科学習目標 3							
教育方法等							
概要	保健体育は技術者としてはもとより、人間としてより良い生活を実践していくための基礎学力および国際社会を多面的に捉える教養を身につける。個人の健康の保持増進に努めると共に、幅広い視点から社会性を見につけ、意欲的かつ実践的に運動課題の解決に取り組む姿勢を育成する。						
授業の進め方・方法	理解を深めるため、必要に応じてレポートや課題を課すことがある。						
注意点	前期は雨天時にバレーボールを実施する。 学校指定の服装を着用すること。体育館に入るときは必ず室内シューズに履きかえること。 障害防止等安全上の観点より、実技授業中は携帯電話の保持やアクセサリー類の着用を禁ずる。 怪我等身体的事由により規定の種目が受講できない場合、適宜レポート課題を課す。						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、スポーツテスト（屋外種目）			スポーツテスト実施上のルールに従い実践できる。	
		2週	スポーツテスト（屋内種目）			スポーツテスト実施上のルールに従い実践できる。	
		3週	サッカー	対人パス、ドリブル、シュート		確実なパス、ドリブル、シュートができる。	
		4週	サッカー	セット練習		確実なパス、ドリブル、シュートができる。	
		5週	サッカー	ミニゲーム		正確なボールコントロールができる。	
		6週	サッカー	ゲーム		ルールを理解しゲームができる。	
		7週	サッカー	ゲーム		ルールを理解しゲームができる。	
		8週	サッカー	ゲーム		ルールを理解しゲームができる。	
	2ndQ	9週	サッカー	ゲーム		ルールを理解しゲームができる。	
		10週	サッカー	テスト		実技テスト課題を達成できる。	
		11週	水 泳	短距離泳		効率的な泳法を習得し、泳ぐことができる。	
		12週	水 泳	長距離泳		効率的な泳法を習得し、泳ぐことができる。	
		13週	水 泳	テスト		自己の持つ力を最大限に発揮できる。	
		14週	保 健	交通問題を考える		交通安全の意識を高め事故防止を考えることができる。	
		15週	前期復習			前期の授業内容を振り返り、理解し説明できる。	
		16週					
後期	3rdQ	1週	体 操 チ・大縄)	ガイダンス、縄跳び（短縄・ダブルダツ	縄跳び運動の規定種目を跳ぶことができる。		
		2週	体 操	縄跳び（短縄・ダブルダツチ・大縄)	縄跳び運動の規定種目を跳ぶことができる。		

		3週	体 操 縄跳び（短縄・ダブルダッチ・大縄）, 静止倒立	静止倒立による逆位感覚を理解できる。	
		4週	体 操 縄跳び（短縄・ダブルダッチ・大縄）, マット運動（前後転等）	マット運動を通じて柔軟性を高める方法を理解できる。	
		5週	保 健 環境問題を考える	地球環境問題を理解し説明できる。	
		6週	体 操 マット運動（開脚・伸膝・倒立前転等）	マット運動を通じて柔軟性を高める方法を理解できる。	
		7週	体 操 マット運動（総合練習）	マット運動を通じて柔軟性を高める方法を理解できる。	
		8週	体 操 マット運動（総合練習）	マット運動を通じて柔軟性を高める方法を理解できる。	
		4thQ	9週	体 操 マット運動テスト	実技テスト課題を達成できる。
			10週	バスケットボール ボールコントロール, シュート	自在なボールコントロールや確実なシュートができる。
	11週		バスケットボール ランニングシュート, ゲーム	正確なシュートを決めることができる。	
	12週		バスケットボール ゲーム	ルールを理解しゲームができる。	
	13週		バスケットボール ゲーム	ルールを理解しゲームができる。	
	14週		バスケットボール テスト	実技テスト課題を達成できる。	
		15週	後期復習	後期の授業内容を振り返り、理解し説明できる。	
		16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		実技試験	筆記試験	合計	
総合評価割合		70	30	100	
分野横断的能力		70	30	100	